教区新報 HONGYO

発行所 浄土真宗本願寺派　兵庫教区教務所
〒650 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号
（本願寺神戸別院内）
電話 神戸(078)341－5949(代)
〔編集〕教区基推委広報部

1993.9・10　72号

工事は戸田建設に決定

別院・教務所 20日ごろ加納町に移転

去る九月九日、本願寺神戸別院改築・兵庫教区教化センター設立建設工事入札会が、田中法劔委員長ら委員会代表者八人の立ち会いのもと別院で行われ、戸田建設株式会社（本社・東京都中央区京橋一－七－一）が落札し、建設業者が決定した。

指名願い提出業者は十五社あったが、ゼネコン疑惑の業者や辞退の業者もあり最終的に十一社で入札が行われた。

戸田建設は創業明治十四年、資本金二百二十六億円で、大谷本廟第二無量寿堂（JV）など宗教施設も数多く施工している業界大手。建設業者の決定を受けて委員会では、本願寺神戸別院整備復興建設計画について報告並びにお願いの文書を教区内寺院に送り、業者の決定と、寺院依頼懇志・寺院協賛懇志の進納額が四億九千万円にのぼっていること、納骨所は四十六基契約済など復興計画の現況報告と、かさねての協力をお願いした。

建設計画お知らせの看板（左）が設置された別院

工事予定期間は本年十月上旬以降十七カ月間で、別院近隣自治会への説明会も始まり、建築計画のお知らせ（＝写真）も設置された。

今後の予定は、教務所の移転後、準備工事、解体撤去工事を行い、十一月末ごろに新築建物着工（起工式となっており、それに先立ち十月一日に元奈良国立博物館学芸課長・光森正士師（阪神西組金衆寺）が別院本堂ご本尊の損傷などについて点検する。

その後、仏具などを分類一時保管し、十五日には遷仏法要を勤める。

別院・教務所の移転は十月二十日ごろの予定で、移転先は神戸市役所浜側の東遊園地浜側で、三宮駅から徒歩で約十分の所（〒六五〇　神戸市中央区加納町六－三）。電話は後日お知らせいたします。

総代の近藤氏 一千万の懇志

九月末、神戸別院総代・近藤常吉氏（株式会社マスヤ社長）から一千万円の建設懇志上納の申し出があった。

今年も組の青少年部が中心となって「仏教少年サマースクール」が実施された。すでに十二回を数え、組の行事として定着している◆対象を小学三年生から六年生以下の男女とし、定員五十人で締め切っている。参加費二千円で日校聖典をテキストに、仏の子どもとしての作法その他を指導しながら、青年僧侶の若さで子どもたちと接してもらっている◆各寺院においても、独自にサマースクールを実施されているところも少なくないが、子どもたちにとっても、また違った意味での触れ合い・体験の輪を広げていくことができるのではないか◆子どもたちの感想文にも、最初は不安を感じながらもすぐ友達ができ、楽しく生き生きと行事に参加していく姿が読み取れ、ほほえましい◆子どもたちは、学校や家庭では学べないものをこのサマースクールで確実に学んでいるようである。仏の子としての自覚は、やはりお寺でのご縁でなければと、つくづく知らされている。（伊東良昭）

教区だより 10・11月

7日(木)
別院仏婦定例法座　岡本幸信師　1時半
8日(金)
寺婦ブロック研修(丹波)　養父組永照寺
12日(火)
寺婦ブロック研修(阪神・神戸)　別院
13日(水)
総局巡回「蓮如上人五百回遠忌推進のつどい」　11時
14(木)～16日(土)
別院常例法座　尺一顕正師　1時半
19日(火)～20日(水)
仏婦研修旅行　北陸
11月3日(水)
全国仏壮大会　本山
7日(日)
永代経開闡法要　大谷本廟
別院仏婦定例法座　近藤龍樹師　1時半
9日(火)～10日(水)
第三ブロック布教使研修会　タワーサイドホテル
11日(木)
愛生園・光明園報恩講　長島
13日(土)
江並教堂報恩講　1時半
14日(日)～16日(火)
別院常例法座　増井浄見師　1時半
18日(木)～20日(土)
組巡教　氷上西組・播磨東組
27日(金)～29日(日)
別院報恩講　別院

十三日に総局巡回

―蓮如上人五百回遠忌推進のつどい―

来年一月一日から始動する「蓮如上人五百回遠忌総合計画」の実施に向けて、総局が全教区を巡回し全宗門の理解と協力を得ることを目的に、総局巡回「蓮如上人五百回遠忌推進のつどい」が来る十月十三日、別院で開催される。

第一部は推進協議会、第二部は午後一時三十分から「蓮如上人鑽仰のつどい」で、巡回員の九折舜壽総務挨拶、ビデオを使った総合計画説明、梯實圓司教の講話、参加者の提言、決意表明などが行われる予定になっている。

蓮如上人真筆の開基名号

城崎組・国正寺

城崎組国正寺（小玉大誠住職）の開基六字名号が今春、本願寺史料研究所・平松令三氏らの調査によって蓮如上人の真筆であろうと明らかになった。

小玉住職によると「初代が縁あって当地の天台宗薬師堂に住居し、浄土真宗の一カ寺建立ができることになり、実家にあった虎符の名号を安置し、谷垣山国正寺として寺基を明確にし本山に申請したもようである」という。他の寺宝と同様、一般公開している。

国正寺の六字名号

北海道南西沖地震 義援金②

（8月号以降の教務所受付分（敬称略））

▽佐用組仏教婦人会▽社会福祉推進協議会兵庫支部▽神北組勝福寺日曜学校▽後藤善成（阪神北組勝福寺▽佐用組▽淡路組萬行寺▽神明組真宗寺▽阪神南組西光寺

報恩講の「法」です

「法」シリーズ報恩講号を今月号に同封しております。お盆には組でまとめて購読いただくなど、大変好評でした。今回も一部二十円で、百部以上の場合は、無料で寺号を印刷いたします。

おことわり

今回の72号は、都合により9・10月合併号としました。

敬弔

赤松正之師（あかまつ・ただし＝神明組西明寺副住職）八月一日、三十六才で往生。葬儀は八月四日、西明寺で。「大明院釋正之」

昭和五十六年から副住職。

吉原大乗師（よしわら・だいじょう＝氷上東組明光寺衆徒）八月十日、八十七才で往生。葬儀は八月十二日。「龍誓院釋大乗」。

昭和六年から同五十一年まで、金照寺住職。この間昭和十三年から同十四年まで大同駐在。昭和二十年と同四十八年から一期、組長を務めた。

奥田敏枝さん（おくだ・としえ＝神姫組阿弥陀寺坊守）八月二十日、七十二才で往生。葬儀は八月二十三日、阿弥陀寺で。「妙覚院釋尼芳敏」。

福岡智孝師（ふくおか・ちこう＝揖龍東組圓福寺住職）九月十五日、六十九才往生。葬儀は九月十八日、圓福寺で。「拯済院釋智孝」

昭和三十八年から住職在職三十年。この間、昭和四十年から同四十八年までと昭和五十二年から副組長、昭和六十年から組長を務めた。

山折師・大峯師が浄土真宗の未来討論

―青僧会15周年―

九月十八日、青年僧侶の会が十五周年を記念して「浄土真宗の未来はどうあるべきか」をテーマに、別院でシンポジウムを行った。

講師の山折哲雄師は、日本人固有の宗教意識を無視していくことはできず、一般化した民俗的な宗教意識を認めて新たな解釈をしていくことは未来を考える上で避けて通れないことを、蓮如上人を窓口に述べた。

また、大峯顯師は、親鸞聖人の独創性を、日本的考えに受け入れやすいからではなく宇宙的な深いところに突き抜けたものがあったからではないかという点から考え、往相・還相はいのちのはたらきで、それを伝える言葉の改新が教団の活性化だと述べ、両師とも浄土真宗という一宗派の垣根を取る必要性に触れた。

祖先崇拝について山折師は「教団は祖先崇拝の上に成り立っていることを覆い隠すのはよくない（私は祖先崇拝は重視しない）。日本という文化圏で発達したことを大切にすべきで、各時代の人がどう信仰を守ってきたかを考えるべき」と答えた。

「人間の愛も煩悩……」

若婦人の集いで太田師

教区仏婦連盟主催の「第六回若婦人の集い」が九月十二日、加古川市にある宗門学校の兵庫女子短期大学を会場に三百三十三人が集い、開催された。

開会式には、大塚圭介学長から学校の紹介やその特色ある教育など、熱意のこもったご挨拶をいただいた。

午前の講義は「幼児の心を育てる」と題して同短大の畠山忠教授から、午後は讃歌指導の後、「人間というこの不思議なもの」と題して、奈良教区誓願寺住職・関西女子美術短期大学教授の太田信隆師から講義と質疑応答など。

人間が誇れる「愛」さえも煩悩、と仏教は否定するとの先生のお話に、若い仏婦会員は仏教への思いを新たにしたのでは…。

声を揃えて讃歌の練習

されど住職

神戸東組照光寺住職 津守秀導さん

鬼塚の寺から仏法発信

神戸市灘区水道筋商店街のすぐ近く、照光寺の境内には「鬼塚」（おにづか）という古墳がある。

そこから名づけられた寺報『鬼塚だより』に、総代の藤井勇氏が次のように記している。

「本堂の前西側に何やら大きな石が多数乱雑に積み上げられ、以前から風雨にさらされている。それは古墳であって、鬼塚といい、照光寺の山号（鬼塚山―きちょざん）のいわれであり また本紙の名称の由来でもあります。以前はそれを覆う円形の盛り土がありましたが、昭和十一年にそれが取り除かれ、横穴式石室が発掘され、人骨、須恵器等が出土しました。」

津守秀導住職は「はずかしい」と、あまり多くを語らないが、龍谷大学を卒業して間もない昭和三十二～三年頃、『響流』という同人誌のインタビューで、金子大栄、結城令聞、井上善右衛門らの各師に体当りで話しをお聞いたことも。

教区新報が現在の体裁になった頃の広報部会員で「HO」のタイトルは「兵庫と岡山の頭文字で法をあらわし、兵庫教区から仏法ひろまれかしという願いを」という津守住職の発案。

それより前に「むづかしいことは抜きにして思ったことあったことをそのまま書こう」と始めた『鬼塚だより』では、自分の称える念仏などを通して、ありのままの姿を門徒さんと一緒に問ってきたが、身体の具合を悪くしてからは途切れたままになっているという

ちなみに、「鬼塚」という古墳の名称は「むかし、ここに鬼棲みし所也としてかく云ふ」という記録によるもので、神戸市からも調査に訪れたということだが被葬者に関してなどは上記以外に今のところ資料、手がかりはないらしい。

神戸市灘区篠原南町六丁目一―四。

（広報部）

HO日誌

◆8月1日＝暁天講座。講師は和田智浄師（揖龍東組源徳寺）、テーマは「私はこの人生をどう生きる」◆5日＝永代経開闢法要を大谷本廟で◆2日＝暁天講座講師は佐々木大観師（宍粟組西願寺）、テーマは「人身受けがたし、仏法聞きがたし」◆建設・推進委員会総務部会・建築部会合同会議。建設業者の選定方法について◆建設・推進委員会財務部会。今後の募財の取り組み、財務部会と勧励員の働きについて◆3日＝暁天講座。講師は藤田真哲師（神明組慈照寺）、テーマは「本願って何？」◆4日＝神明組西明寺副住職・赤松正之師の葬儀に教務所長参列、達書伝達◆5日～6日＝近畿同朋運動寺族婦人研修会を奈良・若草ホテルで◆6日＝建設・推進委員会常任委員会。建設計画の進捗状況について報告。建設業者の選定方法ならびに入札方法について◆7日＝第一土曜仏教講座。講師は清岡隆文師（勧学寮部長）テーマは「如来の願いに生きる」◆出石組住職寺族同朋講座を西宗寺で。講師は津川肇師（城崎組明元寺）◆11日～15日＝別院盆参り◆16日～20日＝別院・教務所職員夏季休暇◆20日＝建設業者現場説明会◆21日＝ビハーラ兵庫のメンバーらが、神戸市北区の「ふじの里」訪問。夏祭りのお手伝い◆23日＝門徒推進員役員会◆27日＝宍粟組住職寺族同朋講座を明宝寺で。講師は川端正道師（岡山北組報恩寺）◆28日＝教区保育連盟園長・主任研修懇談会を神戸中組光尊寺で◆29日＝岡山北組當林寺から団参◆仏壮ブロック研修を姫路西組本徳寺で。講師は那須野浄英師（滋賀教区神崎組弘誓寺）◆30日＝企画推進室会議。本年度僧侶研修の実施について。教区基推委設置規則区令の一部改正や組織図についても検討◆本山で教務所長会◆31日＝ビハーラ兵庫会員・賛助会員研修会。講師は石川島播磨病院内科部長・黒田信稔師（姫路西組満勝寺）。医療現場でのビハーラ活動の方向性などを考えた。

僧侶中心教団を反省

別院近隣に改築説明

◆9月1日＝連研のための研究会。連研ノートD製作のねらいと研修読本第三章について、連研中央講師・久堀弘義師（神戸湊組行願寺）が講義。未開催、休止組の問題点についても協議され、「連研の大きなメリットは組活動が活発になるということ。組活動ができないという事情もあり、検討部会で事情を把握することも大切」「部会から未開催組との話し合いの場が持ちにくい。組長さんには各組でその場を持っていただきたい」「浄土真宗の教えの基本を各問いの中でどう押さえていくかのヒントが欲しい」などの意見が出された。「僧侶中心教団であったという反省から意識改革が求められている。単にハウツーものとしてではなく、教えと私の現実との関わりを押さえていくことが大切。ノートDも、質問を切り捨てるのではなく、どろどろとした問題から一度出発してみてはどうか、ということ」と久堀師◆仏壮ブロック研修を岡山北組宝福寺で。講師は野村康治師（大阪教区中島東組瑞松寺◆2日＝総代ブロック研修を豊岡教堂で。講師は太田唯念師（播磨中組西念寺）

連研々究会で話し合い

◆建設・推進委員会財務部会◆滋賀県守山で行われた寺族青年野球大会に教区から二チーム参加◆3日＝総代ブロック研修を氷上西組西光寺で。講師は太田唯念師◆4日＝第一土曜仏教講座。講師は岩見紀明師（福井教区布教団副団長）テーマは「煩悩を詠む」◆播磨東組妙覚寺と姫路西組光瑞寺から団参◆東西保育研修会を加古川・おおぞら保育園で◆4日～5日＝教区仏青研修会。「私の生き方と浄土真宗」と題して、宮里哲秀師（神明組真宗寺）が基調講義◆5日＝永代経開闢法要を大谷本廟で◆6日＝総代ブロック研修。講師は足利孝之師（阪神東組安養寺）◆加古川組住職寺族同朋講座を報恩寺で。講師は森田智師（播磨東組妙覚寺）◆7日＝別院仏婦定例法座。講師は竹内俊之師（揖龍東組浄蓮寺）◆8日＝総代ブロック研修を姫路西組本徳寺で。講師は井上朋義師（加古川組正願寺）◆9日＝入札会◆9日～10日＝近畿ブロック寺族婦人研修会を和歌山で◆10日＝総代ブロック研修を岡山北組當林寺で。講師は井上朋義師◆建設工事についての近隣自治会説明会。別院敷地下を通る排水の流れや、日照、地盤沈下などについて質問があった◆11日＝赤穂北組浄光寺から仏壮団参◆神崎郡神崎町の特別養護老人ホーム「うぐいす荘」竣工式に教務所長出席◆12日＝第六回若婦人の集いを兵庫女子短期大学で（別記）◆14日＝総代ブロック研修を播磨東組西入寺で。講師は足利孝之師◆14日～16日＝別院常例法座。講師は井上朋義師◆17日＝姫路中組浄蓮寺と滋賀教区長浜別院から団参◆17日～18日＝第13回千鳥ケ淵全戦没者追悼法要に教務所長出勤。教区から門徒推進員さんも追悼のつどいと法要に参拝し、研修した◆18日＝青年僧侶の会十五周年記念行事（別記）◆揖龍東組圓福寺住職・福岡智孝師の葬儀に副輪番参列、達書伝達。福岡師は揖龍東組組長在任中でした◆近隣自治会説明会◆22日～24日＝別院彼岸会。講師は石田正富師（岐阜教区）